

自転車安全利用およびヘルメットの着用に関する意識調査

福岡大学 辰巳 浩, 堤 香代子, 古谷 光

1. 研究背景と目的

近年、福岡市内でも自転車事故が多発している。2008年の道路交通法の改正で「13歳未満に対して自転車利用時のヘルメット着用」に努めなければならない」と定められたことより、福岡市では自転車ヘルメット着用の条例化に関して議論が行われている。

そこで本研究は、福岡市民を対象にアンケート調査を行い、自転車安全利用と自転車ヘルメットの着用に関する意識を把握することを目的とする。



2. 自転車安全利用五則とは...

2007年7月10日に警察庁交通安全対策本部が定めた。

- 自転車は車道が原則、歩道は例外**
→右上の標識がある歩道では例外的に歩道の通行が認められているが、歩道にこの標識がない場合は車道を通らなければならない(児童・幼児などは除外)。
- 車道は左側を通行**
→自転車は車道の左側を通行しなければならない。つまり、反対車線側を通行してはいけない。
- 歩道は歩行者優先で車道寄りを行**
→右上の標識がある歩道を通る場合、すぐに停止できる速度で徐行しなければならず、歩行者の通行を妨げる場合は一時停止しなければならない。
- 安全ルールを守る**
 - 飲酒運転は禁止
 - 二人乗りは禁止(6歳未満の子供を幼児用座席に乗せる場合以外)
 - 並走は禁止(並走可の標識があるところ以外)
 - 夜間はライトを点灯
 - 信号を守る
 - 交差点での一時停止と安全確認
- 子どもはヘルメットを着用**
→児童・幼児の保護責任者は、児童・幼児に乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。



3. 調査概要

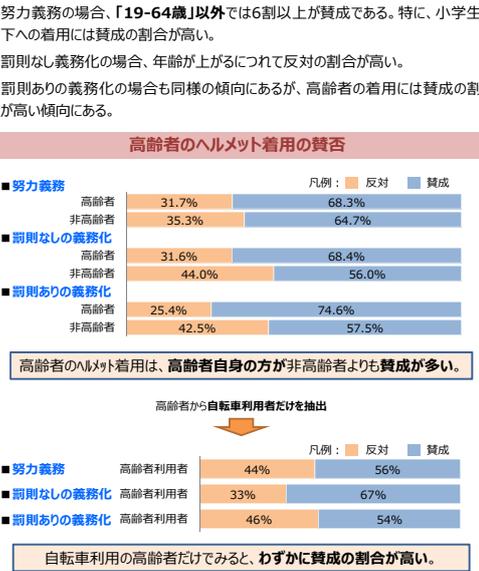
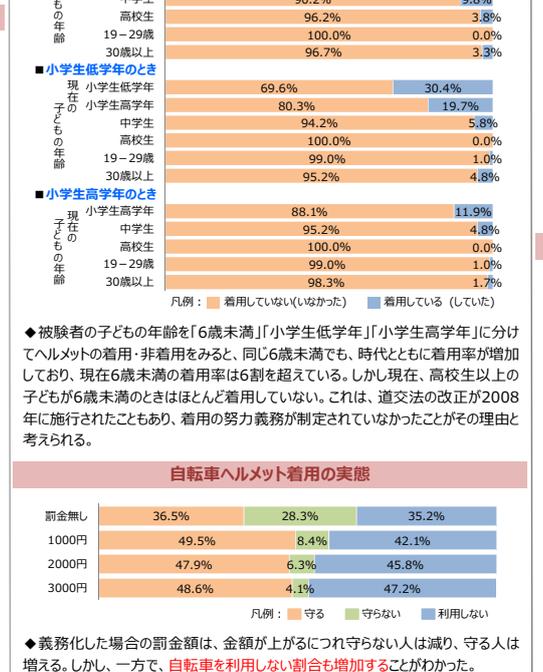
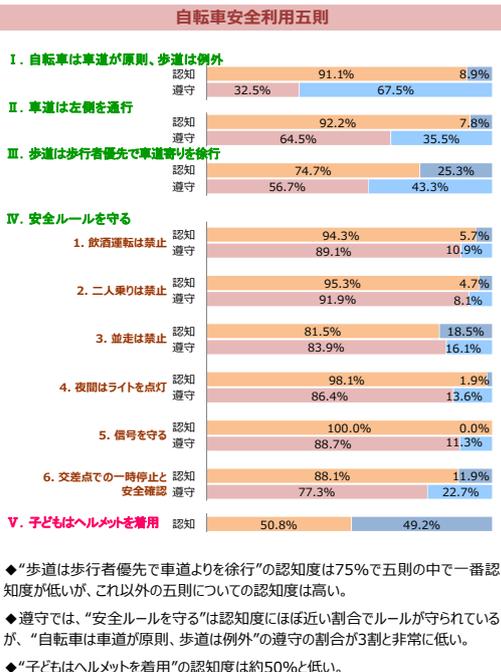
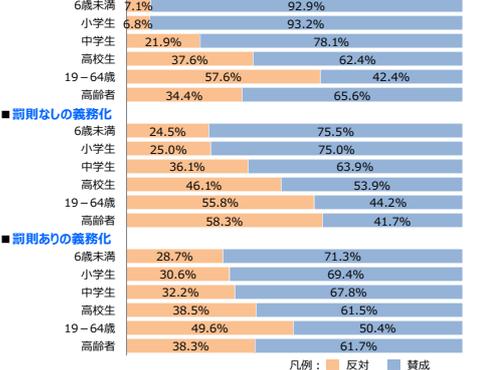
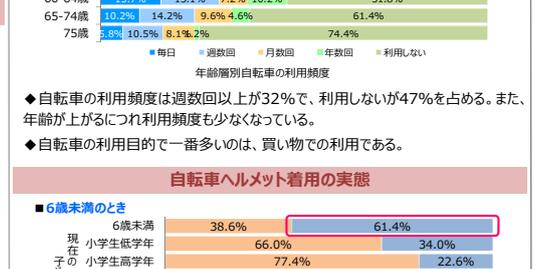
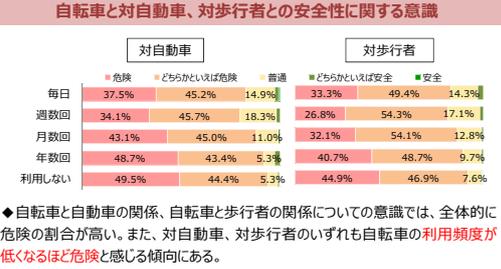
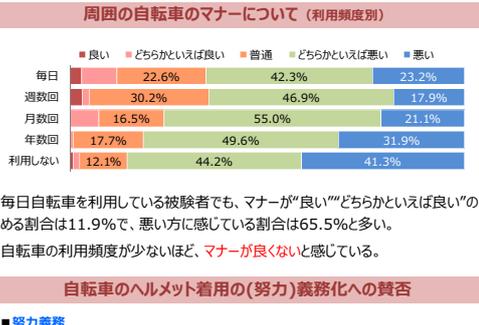
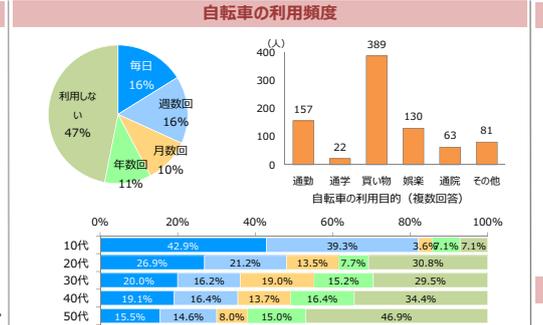
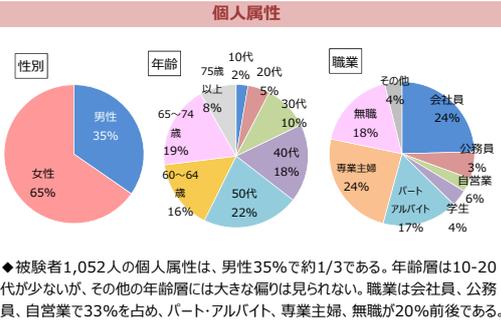
配布日時	2012年9月29日(土) 10~12時
配布・回収方法	調査員によるポスティングで配布、郵送回収
配布場所	福岡市の東区、中央区、早良区、城南区、南区
配布部数	各地区400部、計8,000部
個人属性	性別、年齢、職業
自転車利用	利用目的(複数回答)、利用頻度
利用上の感想	マナー、対自動車、対歩行者
安全利用五則	認知、遵守、規則の賛否、条例化の賛否
自転車ヘルメット	現在・過去のヘルメット着用の有無、義務化への賛否

↓

回収部数と回収率

東区	中央区	早良区	城南区	南区	合計	回収率
227	200	228	227	170	1,052	26.3%

4. 分析



5. まとめ

「子どもはヘルメットを着用」の努力義務の認知度は約5割と低い。ヘルメット着用の現状は、現在6歳未満の子どもの着用率が6割を超えている。

ヘルメット着用の努力義務の対象は、6歳未満・小学生・高齢者の賛成意見が多く、自転車を利用する高齢者自身もヘルメット着用の賛成意見が多いこともわかった。

ヘルメット着用が事故の死亡率を減らすという認知度は高いものの、罰則あり義務化になると「19-64歳」では5割が反対意見である。また、罰金額の金額が上がるにつれ遵守率は上がるものの、自転車の利用低下につながる可能性も含まれていることがわかった。